

# 「ガラス工作技術シンポジウム」を聴講して

森木義隆

工学研究科・工学部技術部 装置開発技術系

## はじめに

国公立機関ガラス技術者の会では、2、3年に一度 ガラス工作技術シンポジウムを開催している。今回、このシンポジウムに参加することで、普段、会う機会のないガラス技術者との技術交流がはかれたれ、各大学におけるガラス工作の現状について理解することが出来るのではないかと考え、このシンポジウムに参加した。その内容について報告する

## 1. 概要

平成 20 年 5 月 22 日から 23 日にかけて、静岡大学浜松キャンパスにて実施されたシンポジウムに参加した。主な内容は各大学のガラス技術者の技術報告と企業見学である。日程については以下に示す。

日程	内容
5 月 22 日 (木)	<p>【記念公講演】 蛍光体研究とガラス工作</p> <p>【技術報告】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) フローセルの製作について</li><li>2) IR 測定用セルの製作</li><li>3) 工芸から理化学ガラスへ 技術職員になって一年</li><li>4) 東北大学 100 周年記念文化貢献賞 記念品の製作</li><li>5) ガラス工作における機械加工の試行錯誤</li><li>6) クリーンな製品を求めて</li></ol> <p>【学内見学】</p> <p>【技術交流会】</p>
5 月 23 日 (金)	<p>【技術報告】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>7) 3 次元 CAD を用いたガラス工作技術の継承と設計支援教材の開発</li><li>8) 社会貢献策としてのガラス細工指導の実践</li><li>9) 都市ガス (6C) による石英ガラスの加工</li><li>10) ガラス管による角皿の製作</li><li>11) フッ酸による石英管内面のエッチング</li><li>12) 仕事における健康と安全提案</li></ol> <p>【企業見学】</p> <p>浜松ホトニクス豊岡工場 (電子管の製作工程、ショールームの見学)</p>

## 2. 内容

1 日目～2 日目の午前中にかけては各大学のガラス加工技術者からの技術報告が行われ、活発な議論が交わされた。2 日目、午後からは浜松ホトニクス豊岡工場にて企業見学会が行われ、理化学用ガラスの中でも特殊な技術の説明や、その製品工程の見学をすることができた。

## 3. 総括

私自身がガラス細工に従事するようになって3年足らずということもあり、どの技術報告も大変参考となった。

また、大学の規模や、各大学でのガラス技術への需要が異なるため、保持する設備の充実度合いが異なります。そのため、十分なガラス加工設備を保持している機関では何でもないガラス加工であっても、設備が不十分な機関では困難なガラス加工となることもあります。しかし、そういった機関に勤務されている方でも工夫を凝らしながら、依頼者のニーズに合うように努力をされていることなど、その姿勢は参考になりました。

企業見学では、普段、見学する機会のない高度なガラス加工技術（異種ガラスの段継ぎ加工、カミオカンデンの光電子増倍管のガラス加工の様子を収めたビデオなど）について見学、視聴することができた。